

TRANSITION TO HEALTH (071)

電磁波環境と健康被害 ⑦

～ 酒・タバコは二十歳、『スマホは18歳』になってから！ ～

はじめに

2011年5月、WHOの専門組織IARC 国際がん研究機関が、携帯電話の1640時間以上の使用で脳腫瘍が1.4倍、短期間集中使用で3.77倍、幼小児期から使用すれば5倍にも増加すると報告し、WHOは長時間使用を警告した。また、本通信のNo.66「～電磁波で小児白血病・脳腫瘍急増！～」で、昨年2018年5月31日の静岡新聞の第1面『思春期・若年がん年間2万人』の記事を紹介したが（右下図）、記事には『0～14歳で最も多いのは白血病、2位は脳腫瘍、3位はリンパ腫で、ほとんどが成人ではまれながん』とあった。

携帯電話の発癌性 WHO警告
IARC 国際がん研究機関2011年5月31日

悪性脳腫瘍の発生
1日30分、10年で
成人 … 1.4倍
若年者 … **5倍!**
(幼少期より使用)

成人ではまれながんが、なぜ小児に？

白血病・脳腫瘍・リンパ腫などの成人では稀ながんが、何故、日本で、小児期・思春期に増え続けているのか。その原因・要因についてメディアが伝えることはほとんどない。

下図は『スカモンの発達・発育曲線』といわれる有名な曲線である（丸山が一部加筆改変）。医療関係者ならずとも、理科や生物学などで学生時代に一度は目にしたことでしょう。誕生から成長期（0歳～20歳）までの発育量を、20歳での到達点を

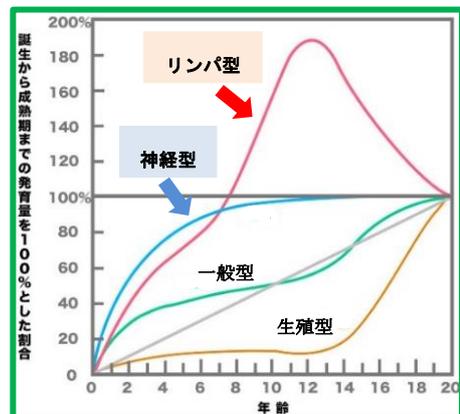
これが子どもに対する携帯・スマホの

0～14歳で最も多いのは白血病、2位は脳腫瘍、3位はリンパ腫で、ほとんどが成人ではまれながん。15～29歳は白血病や卵巣・精

静岡新聞
5月30日
思春期・若年がん年間2万人

電磁波(マイクロ波)効果か!?

スマホで子どもががん!!



Scammon R.E. et al (1930) The measurement of the body in children

100%とした場合の、各年齢での成長割合を示した曲線である。

子どもの脳神経系は、図の青い「神経型」の曲線が示すように、上に凸の曲線を描いて急激に成長し、6歳で80～90%完成する。細胞分裂の極めて盛んなこの時期に、有害なスマホ電磁波を浴びればどうなるか、もうわかりでしょう。また、白血球・リンパ節などの免疫系は赤い「リンパ型」の曲線を示し、そのピークは12歳頃で180%以上に達してから、20歳に向けて下降してくる。WHO、ノーベル医学生理学賞の選定で知られるカロリンスカ研究所、日本の国立環境研究所などの専門機関・研究機関が、子どもの人工電磁波(マイクロ波)の被曝に対して警告を発してきたのは当然といえる。

公益財団法人 静岡県産業労働福祉協会

〒421-0113 静岡市駿河区下川原 6丁目 8番 1号

TEL054(258)4855(代) FAX054(258)4403

http://www.kenshin-shizuoka.net

E-mail: info@kenshin-shizuoka.net

加工肉の発がん性は無視しても、スマホの発がん性は無視するな！レベルが違う

ここで、話題を変えてみましょう。2015年10月、WHOの専門組織・国際がん研究機関（IARC）が、ハムやソーセージ、ベーコンなどの加工肉の摂取と大腸癌との関連を公表した。ベーコン、ハム、ホットドッグのソーセージなどの加工肉は化学物質で保存され、また、加工段階で発癌性物質が生成されると指摘し、加工肉を1日50g（ソーセージなら2〜3本、ハムなら3〜4枚程度）摂取すると、大腸癌のリスクが18%増加すると発表。加工肉の発癌性をタバコやアスベストと同じ、5段階中の最高レベルとした。また、赤身肉でも発癌性の恐れがあると結論付けていた。

発癌性が疑われる加工肉を1日50g摂取していた群の発癌率が、対照群の1.18倍に増えていたということは、明らかに有意に発がんの危険性が高まるということなのである。

今まで、世界の複数の研究機関が、「携帯電話の電磁波で、小児の脳腫瘍・白血病などの癌が、5倍〜10倍以上も増加する」と警告してきたのである。だから、ヨーロッパの国々では「16歳以下は原則使用禁止」「14歳以下への広告禁止」等の措置をとっているのである。「ハム・ソーセージの発がん率1.2倍」は無視できたとしても、「携帯電話の発がん率5倍、10倍」は無視できるレベルではない。

スマホで大脳発達遅延、スマホは18歳になってから！！

本通信 No.67 で東北大学加齢医学研究所の川島隆太所長の著書『スマホが学力を破壊する』（2018年3月出版）を紹介した。仙台市の市立中学生を対象としたその研究の内容は「家庭で2時間以上まじめに勉強しても、スマホを1日4時間以上使っていると、点数で15点（数学の場合）、偏差値で10も低い。この成績は、家で勉強しないがスマホもあまり使わない生徒よりも低い」「スマホをやめるだけで偏差値が10上がります」というもので、“4時間以上携帯・スマホを使ってしまうと、まじめに2時間以上も自宅で勉強しても、その成果が全く得られないどころか、授業中の学習成果も損なわれてしまっている”という状況であることが分かった。

さらに、川島氏の研究では、スマホの使用時間が長い中学生では「大脳に発達の遅れ」が見られたという。スマホなどでネットを長時間使う子どもたちの脳では、脳全体をつなぐ神経線維の集合である「白質の発達が遅れている」という。脳全体に広範囲に悪影響が出ていることを初めて突き止め、驚愕されたようである。中学生たちの記憶の能力自体にマイナスの影響が出ていることが予測され、川島氏は『18歳まではスマートフォンを1時間以上使ってはいけない』という法律を作って強制的に使用制限をかけた方が、子どもたちの未来にとっては幸せであろう、と話されていた（NHK クローズアップ現代^{プラス}）。

汝、わが子を調理するなかれ！

妊娠中にスマホを使えば胎児の異常？ 抱っこしながらスマホを使えば小児脳腫瘍（グリオーマ）？ 子どもにスマホをあてがえば小児白血病？・リンパ腫？ 中学生になれば、大脳の発達遅延？ 学習障害？ 成績不良？

行く末はスマホ廃人？ スマホ認知症？ なんとも恐ろしいスマホ漬けの子ども未来像。妊娠中・育児中は、極力、携帯・スマホの使用は控えましょう。



わが子の子守・育児を放棄（？）してスマホで遊ばせないようにしましょう。わが子のDNAはズタズタに切断されてしまうかもしれない。また、ママがスマホに夢中になりすぎて、わが子に『ママのスマホになりたい！ そうすれば、ママはボクを（ワタシを）見てくれるだろう、かまってくれるだろう！？』などと子どもに思われることのないように。

おわりに

どうしても携帯・スマホを使いたい、子どもに持たせたいという場合には、子どもの安心と健康のために、生体エネルギー[®]技術を応用して開発されたスマホ対応の充電器・誘導翻訳器『天音S^{あまね}』を使ってリスク管理することを、私は自身の経験から、皆さんに奨めます。早く『劣化したこの地球を救う技術・理論：生体エネルギー[®]』に関心を持って頂きたいものである。TRANSITION TO HEALTH（理事長・医師 丸山 正明）

子供たちにとって
発がん(脳腫瘍・白血病など)の危険性があるのに
なぜ日本は、スマホを規制しない！？

ヨーロッパ評議会議員会議(加盟47か国)の勧告
2011年5月

- * 16歳以下の子どもはスマホ・携帯電話の使用原則禁止 緊急時のみ可
(イギリス・フランス・フィンランド・ドイツ・ロシアなど)
- * 14歳以下の子どもへの 広告・宣伝禁止
(フランス・ベルギーなど)



酒・タバコよりやばい！
スマホの電磁波(マイクロ波)

子どもたちに酒・たばこは禁じているのに
なぜ、携帯・スマホを規制しない！
後れている奇妙な国 日本